

鳥取大学放射線科専門研修プログラム

● 概要：

2年間の初期臨床研修を修了した後に、放射線科専門医取得に向けて3年間の研修をおこないます。

放射線科専門医の使命は、画像診断(X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査等)、画像診断を応用した低侵襲性治療(インターベンショナル・ラジオロジー:IVR)、放射性同位元素(RI)内用療法を含む放射線治療の知識と経験を有し、放射線障害の防止に努めつつ、安全で質の高い放射線診療を提供することにあります。

本プログラムは、放射線科領域における幅広い知識と錬磨された技能、ならびに医師としての高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医をめざして、放射線科専攻医(以下、専攻医)を教育します。



● 年次毎の専門研修計画：

各年度の目標は下記の通りです。研修プログラムでは研修環境や進捗状況により柔軟に対応します。なお、詳細は専門医研修マニュアルを参照してください。

1年目

- ・知識:放射線科診療に必要な基礎的知識・病態を習得する
- ・技能:専門研修指導医の管理のもと、画像検査が実施可能な技能を習得する
- ・態度:医師として、医の倫理や医療安全に基づいた適切な態度と習慣(基本的診療能力)を身につける

2,3年目

- ・知識:放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR治療、放射線治療の知識を習得する
- ・技能:放射線科専門医レベルの疾患に対し、専門研修指導医の管理のもと、放射線診断、IVR治療、放射線治療が実施可能な技能を身につけ、必要に応じ専門研修指導医の援助を求める判断力を身につける

【その他の
指導内容】

- ・3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医(放射線診断専門医または放射線治療専門医)の方向性を決定できるよう指導します。
- ・専門性を持ちつつ臨床研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成できるよう指導します。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材となるよう指導します。
- ・日本医学放射線学会認定教育講習会を、必要回数受講するよう指導します。

● 専門研修連携施設：

連携施設		
鳥取県立中央病院	鳥取県立厚生病院	松江赤十字病院
鳥取市立病院	山陰労災病院	浜田医療センター
鳥取赤十字病院	米子医療センター	公立八鹿病院
	松江市立病院	

● 研修スケジュール：

研修には以下の3コースが設定されています。どのコースに進むかは希望を聞いた上、相談で決定します。コース例は下表のとおりです。

コース	1年目	2年目	3年目
基幹施設 中心コース	基幹施設	連携施設	基幹施設
連携施設 中心コース ^{※1}	基幹施設	連携施設	連携施設
博士号取得 コース ^{※2}	基幹施設 (大学院・臨床)	連携施設 (大学院・臨床)	基幹施設 (大学院・臨床)

^{※1} 連携施設中心コース: 専門研修基幹施設での基本研修修了後、専門研修連携施設である関連病院で臨床医としての研修に重点をおくコースです
 専門研修連携施設は原則として1年ごと異動しますが、諸事情により2年間同一施設もあり得ます。1年目に専門研修連携施設で研修し、2年目以降に専門研修基幹施設での研修を選択することも可能です

^{※2} 博士号取得コース: 専門医取得と博士号取得を同時に目指すコースです
 基幹施設ならびに連携施設では午後5時まで研修を行い、それ以降に大学院で博士号取得を目指します。サブスペシャリティ領域の研修も大学病院で同様の状況が2年間持続します。希望や事情により、大学院入学を専攻医2年目以降に遅らせることも可能です

● 専門医受験資格取得要件 等：

- 研修到達目標の全てが達成されている
- 所定の件数^{※3}の画像検査の読影もしくは手技を経験していること
- 所定の件数^{※4}のIVRならびに放射線治療を経験していること
- 筆頭者として演題発表1回以上
- 筆頭著者もしくは共著者として論文発表1編以上^{※5}

^{※3} X線単純撮影: 400例、CT: 600例、MRI: 300例、超音波検査: 120例、消化管X線検査: 60例、核医学検査: 50例

^{※4} IVR: 30例、放射線治療: 30例



● **本プログラムの特徴：**

- 専門研修施設は複数の医療圏・地域にまたがっていますが、本専門研修施設群には、従前から密接で強固な人的連携のもとで地域医療を担い専門医育成をおこなってきた実績があります。鳥取大学を中心に、人的交流のほか、セミナーや情報コミュニケーション技術 (Information and Communication Technology : ICT) をもちいたカンファレンスなどを定期的の実施しており、研修において距離的ハンディを感じることはありません。

放射線科専門医をめざそう

- ・ 診療科・臓器横断的な診療内容
- ・ ドクターズ・ドクターとして、診療レベル向上に貢献
- ・ 最先端の放射線診療機器を駆使
- ・ 俯瞰的かつ専門的な画像診断力を発揮
- ・ 低侵襲で確実な効果を得る IVR
- ・ 臓器機能・整容性を温存するがん放射線治療
- ・ 男女の区別なく、第一線で活躍



連絡先

鳥取大学医学部附属病院放射線診療科群(放射線科・放射線治療科)

指導責任者 小川敏英

統括医長 足立 憲

〒683-8504 米子市西町 36-1

TEL: 0859-38-6637 FAX: 0859-38-6639

URL <http://www.med.tottori-u.ac.jp/radio/>

mail: toridairadiolog@ml.med.tottori-u.ac.jp